

授業で教える英語ディベート

日本高校生パラメンタリーディベート連盟 理事 小林良裕

2020 年 4 月 28 日版

・全 11 回 × 各回 15 分～20 分 程度

◆ 【11 回の構成】

1) ディベート指導の背景知識[1]

- ・即興型と準備型
- ・日本におけるディベート指導の小史
- ・中高大の活動の現状

2) ディベート指導の背景知識[2]

- ・即興と 準備型の違い：議論の扱いに関して

3) ディベート指導の類型

- ・日本の大学の部活動での指導
- ・学校のカリキュラム内での指導の 3 類型

4) 具体的に教える内容 ① 議論の立て方

5) 具体的に教える内容 ② 反論の仕方

6) 具体的に教える内容 ③ 質問の仕方

- ・fact / opinion を見分ける
- ・POI というものについて

7) 小グループでの活動

- ・立論・質問・要約・反論の 1 人 1 役

8) 試合をさせる・

- ・聞き方の指導
- ・勝敗の決め方

9) ディベートと他の活動を組み合わせる

- ・Reading 教材のまとめとして
- ・Writing 活動のまとめとして

10) 「4 技能検定」&入試の指導と組み合わせる

11) 部活動での指導

- ・事例報告
- ・大会の種類

英語ディベート指導カリキュラム： 初級(中3～高2程度)～中級(高2～大学1年程度)

*下線の引かれた項目が、中級用

能力区分	具体的指導目標 (Can-do lists)	
批判的思考能力(I) 事実を正確に把握し、 分かりやすく伝達で きる	(I・i) 事実と意見を 区別する能力 (I・ii) 事実を把握す る能力 (I・iii) 事実を伝える 能力 1. 短文を読んで、それが事実であるか意見であるか見分ける。 2. パラグラフや文章を読んで、事実を述べた部分と意見を述べた部分を区別できる。 3. 数分程度のモノローグをノートテイクすることが出来る。 4. 他人の発話を聞いて、項目 1.2.と同様の判別を行える。 5. 他人の発話を聞いて、不明な点について質問ができる。 6. 他人の発話を聞いて、それを意見・根拠の観点から簡潔に日本語そして英語で要約できる。 7. 事実として提示されているものを、具体例、専門家の意見、数量データに分類できる。 8. 事実と意見を区別して作文・発話できる。 9. アイコンタクトやジェスチャーなどの非言語のコミュニケーション手段を用いてスピーチできる。 <u>10. 聴衆の特性を踏まえて、スピーチを調整することができる</u>	初級においては、1 文から 200 語程度、スピーチ時間にして 3 分程度のアウットプットを目標とする。 中級においては、600 語程度、スピーチ時間 7 分程度を目標とする。
批判的思考能力(II) 自分の考えを深める ことで、解釈や説明、 評価や論述をする	(II・i) 自分の意見を 理由を挙げて説明す る能力 (II・ii) 情報を評価し 自分の意見に組み込 む能力 (II・iii) 目的意識を持 って情報を積極的に 探す能力 1. 身近な事柄に関する自分の意見を、理由を含めて人に伝える。 2. トピックセンテンスとサポートセンテンスを区別して作文・発話できる。 3. Introduction / Body / Conclusion の構成を踏まえて作文・発話できる。 4. 聞き手がノートを取りやすいように、ディスコースマーカを意識的に用いて話すことができる。 5. 段階を追って論証を説明できる。 <u>6. 自分の作った論証における前提を把握できる。</u> 7. 関連する具体例、専門家の意見、数量データを用いて論拠を作ることができる。 <u>8. 必要とする情報を得るためには、どの種類の英文資料を調べるべきか判断できる。</u> <u>9. 英文の資料から、自分が必要とする情報を選びとる。</u> <u>10. 適切に資料を引用することができる</u>	

批判的思考能力(Ⅲ) 考えを伝えあうこと で、自分の考えや集団 の考えを発展させる	(Ⅲ・i) 他人の意見の 論理をたどる能力 (Ⅲ・ii) 他人の意見と 自分の意見との差を 把握する能力 (Ⅲ・iii) 他人の意見に コメントする能力 (Ⅲ・iv) 他人や自分の 意見を総合し、集団の 合意形成に貢献する 能力	- 書き手や話し手の論証の流れを把握できる。 <u>論証において用いられている前提を見抜くことができる。</u> - 相手の意見に対する自分の意見を、理由を加えて伝える。 - 相手の意見に対して、型を用いて反論を行える。 <u>相手の情意を尊重しつつ、反論を行う事ができる。</u> - 相手からの反論を受け、自らの意見の補足説明が行える。 - 相手と自分の意見の確からしさを、その根拠の強さから比較することができる。 <u>相手と自分が同意している意見、不一致している意見を把握し、確認することができる。</u> <u>相手と自分の意見の違いを、幾つかの争点に要約できる。</u> - 集団で解決すべき課題を確認できる。 <u>課題解決における優先順位を把握し、提示する事ができる。</u>	
ディベート能力(Ⅰ) 形式に関して	(Ⅰ・i) 特定のディベ ート形式について (Ⅰ・ii) ジャッジング に関して	- 北米形式のパラメンタリーディベートのルールに沿って試合ができる。 - 高校生全国大会のルールに沿って試合ができる。 <u>高校生世界大会のルールに沿って試合ができる。</u> <u>大学生世界大会のルールに沿って試合ができる。</u> - 各フォーマットでジャッジングできる。 <u>各フォーマットに特有のストラテジーを用いて試合ができる。</u>	
ディベート能力(Ⅱ) 論題に関して	(Ⅱ・i) 論題に関して (Ⅱ・ii) 原理・原則に 関して	- 時事問題に関して日常的に関心を持っている。 - 与えられたトピックを分析し、特徴づけることができる。 - 古典的な論題に関して知識を持っている。 <u>特定の論題に関してリサーチを行える。</u> <u>特定の分野の背後にある重要な原理・原則を踏まえて、スピーチを行える。</u>	

高校での英語ディベート指導：10年間の総括

小林 良裕

この10年間で高校レベルでの英語ディベート指導は活発化しました。各研究会では頻繁に英語ディベートの実践報告が行われ、様々な教員向けワークショップも各地で開催されています。特殊な部活動としてではなく、英語ディベートはすべての高校生が触れる機会のある授業内の活動として認められつつあります。

この実情を踏まえ、以下では、高校レベルでの英語ディベート指導実践の総括を試みます。自分の勤務校での10年間の取り組みを例にとり、どのような課題が浮かび上がり、その結果どう指導が変化したのかを示します。

まず英語ディベート指導は、以下の3つの観点において類型化できます。これらの観点を参照しながら、3つの時期に分けて説明します。

【英語ディベート指導・教材の類型】

A. 指導内容のバリエーション

- ① 試合のルールを説明する
- ② 試合に向けての準備を行わせる
- ③ ディベートで使うスキルの練習

B. ディベート形式のバリエーション

- ① 裁判での答弁の練習用(準備型)
- ② イギリス議会での答弁の練習用(即興型)

C. 指導形態のバリエーション

- ① 部活動、投げ込み教材として
- ② 教科書のレッスン終了後に数時間など、特別な活動として
- ③ 選択授業として(部活動と同様の少人数への徒弟的な指導)
- ④ 年間を通しての段階的な指導

■ 第1期 「とりあえず試合」

自分の勤務校では、10年以上前から、高校1年生8クラス、約360名全員が履修する「英語会話」の授業内で、週に1コマ英語ディベートの指導を行っています。日本人教員とネイティブ教員のTeam Teachingで、50分の授業では大まかにリスニング練習に15分、ディベート活動に35分かれています。

指導の内容としては、日本語で英語ディベートの試合のルールを説明し、半年をかけて少しずつ

試合に向けて準備をさせていました。使うフォーマットは日本語の「ディベート甲子園」での形式をベースにした準備型(スピーチの中で証拠の引用を行うもの)です。1月から3月にかけて、生徒が5~6人のチームを組み、それぞれ一度試合をさせていました。

指導の成果としては、とりあえず英語ディベートの試合を生徒にさせることが出来た、という事に尽きると言えます。

身につけた英語力を披露する場の提供として、校内英語ディベート大会を実施している学校の事例は多くあります(茨城県、埼玉県、東京都など、都道府県レベルの公立学校の横のつながりで、多くの実践報告が共有されています)。

指導内容の一例としては、拙著の「高校生のための初めての英語ディベート」をご覧ください(日本高校生パラメンタリーディベート連盟、略称HPDUのサイトにてPDFを公開しています。後述の趣味で作成した教材も掲載しております)。

学校行事としても有意義な時間になり得るこの種の指導に対して、多くの教員から、共通して出る疑問が1つあります。それは「果たしてこのディベートゲームという特殊な活動は、英語の授業なのか」という問いです。試合をさせることが目的になっていて、生徒の英語力を伸ばすことは二の次になっていないか、という懸念があります。

■ 第2期 2011~12年「英語の授業として」

勤務校の2年目にて、初めて自分が高校1年の英語会話を担当することになりました。ちょうど、在籍していた大学院にて修士論文に代わる研究成果として、高校授業用の英語ディベート教材セットを完成させており、その教材を勤務校用に修正して用いました。

英語ディベートを取り入れた高校の授業は、英語ディベートのための授業になっているのでは、という自分が感じていた問題意識を踏まえ、教材では以下の改善策を取り入れました：

- 1) 英語ディベートで使われるスキルを、一般的な英語能力に読み替え、can-do リスト化
- 2) 授業では、それらの英語スキルを指導
- 3) それら一般的な英語能力を組み合わせ、最後にはディベートの試合をする

また、指導内容の概要は次の通りです：

- | |
|--------------------------|
| 1 学期：[話す] 説得するスピーチの作成、発表 |
| 2 学期：[聞いて応える] 質疑応答、反論の仕方 |
| 3 学期：[試合をする] 証拠の引用、試合形式 |

この時期の成果として、まずは授業が「英語の授業らしく」なりました。生徒は1～2学期にかけて、質問の仕方（相手の発言の何に気をつければ、より話を聞き出せるか）といった英語のスキルを、ネイティブ教員の実演を交えて学びます。日本人教員が英語ディベート自体について、日本語で解説をする時間が、圧倒的に短くなりました。

同時に、新しい課題も見えてきました。まずは生徒の英語力の伸長についてです。一週間に1コマの授業、3学期に1度の試合経験では、定着の機会が少なく、英語力の伸長に貢献していないのではという疑問が生まれました。

また、教員として最も考えさせられたのは、3学期に試合を経験した生徒の感想です。クラス全員を前にしての試合が終わると、どの生徒もほっとして、ディベートはもうしたくないという言葉をお口にしていました。

さらに、全試合「高校生の携帯電話の使用の是非」といった同じトピックを用いて、スピーチ原稿と引用証拠を準備させたことから、試合を聞いている生徒も回数を増すごとに退屈していました。

■ 第3期 2015～『試合をした』で終わらない

その後数年、授業担当から外れた後、再度英語会話の担当となり、趣味で作成していた教材を用いて、以下の改善策を取り入れました。

- | |
|------------------------|
| 1) 3学期の試合数を大幅に増やす |
| 2) たくさん自由英作文(意見文)を書かせる |

まず、3学期に各自1回だけであった試合回数を、10回程度へと大幅に増やしました。各授業で2試合だけ行っていたのを、4～5試合同時進行させ、数ヶ月にわたるリーグ戦をさせました。試合のトピックも毎回変え、証拠の引用は必須とせず、「大食い大会の禁止」「医学部の定員は男性と女性を同数とするべき」など幅広く、即興的なトピックを扱いました（それらトピックに関して、長期休暇中にスピーチ原稿を書かせておきました）。

また、授業で学ばせたブレインストーミングの

仕方、表現方法を踏まえ、半ば日記形式で年間60回程度、自由英作文を書かせました。

これらの取り組みの成果としては、生徒の英語力が実際に伸びたことが挙げられます。（与えた課題を考えれば当然と言えば当然ですが）特にライティングにおいて著しい伸びが出ました。また、教員として嬉しいことに、試合が終わった後の生徒の感想が、苦行を経験した者同士のいたわりの言葉から、「がんばったね」「上手だった！」とお互い励ましあう言葉に変わりました。

■ これから先の指導

ここまで紹介させて頂いた自分の試行錯誤の幾らかは、既にご自身の授業で英語ディベートに取り組んでいらっしゃる全国の先生方のご経験にも共通する部分があるのではと思います。また新たに導入を試みる先生方は、その幾つかに直面することになると思います。ここまでの内容が、皆様の今後のご実践での示唆となれば幸いです。

現在自分が取り組んでいる課題は、流暢さの向上に偏重している現在の指導の中で、どう英語の正確さをどう高めるのか、という点です。

また、英語ディベートを高校1年生の授業で経験させた先に、2年生以降でどう指導内容を引き継ぎ伸ばすのか、現在模索中です。特に、意見を言うことはできても、相手の話を聞いた上で適切に受け答えする能力の指導は、まだまだ途上です。

最後に、ここまでお読みいただいた先生方が、ご自身の英語ディベート指導を振り返る際の手掛かりとして、検討すべき6つの問いを提示して自分の10年間の実践報告を終えさせていただきます。

- | |
|-----------------------|
| ① 試合をさせることが目的なの？ |
| ② 生徒にどんなスキルを学習させるの？ |
| ③ 学習させたスキルをどう定着させるの？ |
| ④ 証拠の引用は必須？ |
| ⑤ 試合は何回させる？ 数回だけでいいの？ |
| ⑥ 英語の正確さをどう指導するの？ |

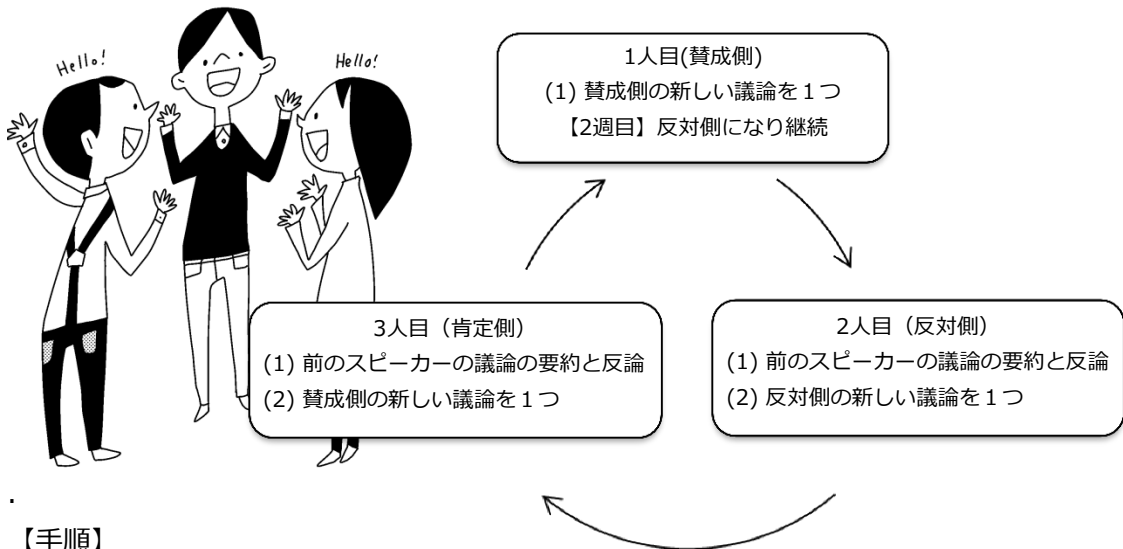
小林 良裕

豊島岡女子学園中学高等学校 教諭

一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟(HPDU) 理事

◆ 練習活動「要約と反論」

Summary & Refute という国際基督教大学の英語ディベート部で考案された練習方法をご紹介します。以下の手順を読み、次のページの表現集を使って練習してみましょう。最初は手順になれるために、日本語でやってみてください。



【手順】

- ① 3~4人程度のグループを作り、論題を1つ選びます。
- ② 誰か1人を起点に、時計回りに賛成側、反対側を交互に割り振ります。
- ③ 準備時間は与えず、すぐスピーチを始めます。賛成側の1人目が、論題を肯定する議論を1つ出します。(相手の話をちゃんと聞いて、手際よく反論をすることが練習の主目的なので、説明の不十分な議論で構いません。むしろ、あからさまにおかしい議論を出して相手が反論しやすいようにした方がテンポも良くなり盛り上がります)
- ④ 反対側の1人目が前の人の議論をまず要約し、次に反論します。そして否定側の議論を1つ出します。
- ⑤ 賛成側の2人目が、反対側1人目の新しい議論だけを(1人目への反論は要約する必要はありません)要約し、反論します。そして、肯定側の新しい議論を1つ出します。
- ⑥ 1順目が終わった場合、賛成側と反対側の立場が自動的に変わります。つまりは賛成側であった者が、反対側になります。2順目が終わるまで続けます。(1番初めにスピーチをした人が、直前の人の反論をして終わりです)

これは、相手の意見をよく聞いて、反論をするための練習です。議論は、出来るだけ簡潔に、相手が反論しやすいように、大きな穴のある議論でも構いません。よく聞いて、要約して的確に反論して下さい。聞き上手になりましょう！

◆ 1 人目の人 (肯定側)

挨拶	みなさん、こんにちは。
論題の確認	この試合の論題は、～です。 この論題に、自分は賛成します。
話の構成について	私の議論は、～についてです。(議論の見出し)。
議論	(出来るだけ簡潔に肯定側の議論を説明します)
結び	以上から、自分は賛成の立場をとります。以上です。

◆ 2 人目の人 (否定側)

直前の相手の議論の要約	[前の人 / ○○さん] は、(直前のスピーカーの議論の要約「～なので、……だ」)と仰いました。
反論	しかしながら、これは [正しくありません。 / いつもそうだとはいりません 重要ではありません / 関係がありません。 / むしろ逆です]。 なぜなら ～。 以上から、○○さんの議論は成り立ちません。
話の構成について	それでは、次に私の否定側の議論に移ります。 私の議論は、～についてです(議論の見出し)。
議論	(出来るだけ簡潔に否定側の議論を説明します)
結び	以上から、自分は否定側の立場をとります。以上です。

◆ 3 人目の人 (肯定側)

直前の相手の議論の要約	[前の人 / ○○さん] は、(直前のスピーカーの議論の要約「～なので、……だ」)と仰いました。 注) 直前のスピーカーの出した <u>新しい議論</u> だけ要約します。直前のスピーカーの行った反論に対しては何も触れません。
反論	しかしながら、これは [正しくありません。 / いつもそうだとはいりません 重要ではありません / 関係がありません。 / むしろ逆です]。 なぜなら ～。 以上から、○○さんの議論は成り立ちません。
話の構成について	それでは、次に私の肯定側の議論に移ります。 私の議論は、～についてです(議論の見出し)。
議論	(出来るだけ簡潔に肯定側の議論を説明します)
結び	以上から、自分は否定側の立場をとります。ありがとうございました。

論題集

<一般的なもの・ディベートの古典的な論題>

1. 学校のマスコットは〇〇にしよう。
2. 学校の制服は着物にしよう。
3. 有名人が何か罪を犯した場合、その罰は重いものにしよう。
4. 裁判はテレビ中継するべきだ。
5. 被選挙権も 18 歳以上に与えよう。
6. 義務教育が終えた者に、投票権を与えよう(16 歳以上に投票権を与える)。

<英語>

1. 英語の授業は全て、ネイティブスピーカーが教えるべきだ。
2. 電子辞書よりも紙の辞書の方が良い。
3. 高校では、第 2 外国語を必修にするべきだ。

<日本史・世界史>

1. 日本の江戸時代の鎖国政策は成功だった。
2. 信長は理想の上司だ。
3. 友人に持つなら、秀吉よりも家康の方が良い。
4. 「大航海時代」は全体的に考えると、世界にとって悪影響だった。
5. 人類史上の最大の発明は、スマートフォンである。
6. 人類の文明は、常に進歩し続けている。
7. 正しい戦争(Just War)は存在する。

<倫理・政経>

1. 人間の本质は、善である。
2. 思想・宗教の優劣を比べることは可能である。
3. イギリスは EU にとどまるべきである。
4. アメリカの「テロとの戦い」は失敗した。
5. アメリカは、個人の銃火器の所持を禁止するべきだ。
6. どんな形であろうと、民主主義が最善の政治体制である。

<国語>

1. 「走れメロス」のメロスは真の勇者である。 / ディオニス王は良い王であった。
2. 文学作品の優劣を比べる事は可能である。
3. 万人（または、日本の高校生）が必ず読むべき文学作品は存在する。
4. 日本を代表する作品を 1 つ選ぶなら、それは「源氏物語」だ。

◆ 試合形式 - Debate Format -

【話す順番と役割】

肯定側	否定側
準備時間	
(1) 肯定側 1 人目 [1 分 or 2 分] ・ 肯定側の議論を 1 つ提示	(2) 否定側 1 人目 [1 分 or 2 分] ・ 否定側の議論を 1 つ提示
(4) 肯定側 2 人目 [30 秒 or 1 分] ・ 相手の議論に反論	(3) 否定側 2 人目 [30 秒 or 1 分] ・ 相手の議論に反論
(5) 肯定側 3 人目 [30 秒 or 1 分] ・ 反論されたことに対して立て直し	(6) 否定側 3 人目 [30 秒 or 1 分] ・ 反論されたことに対して立て直し
☀ その他のルール ・ スピーチの合間に準備時間は設けません ・ 勝敗は、より納得のいく議論を出したのはどちらのチームだったかで決めます。議論は以下の 2 つの観点で評価します： a) $A \rightarrow B \rightarrow C$ が納得のいく流れになっていたか。 b) 具体例をきちんとだしていたか	

- Memo -

今回引用・言及したウェブサイト・資料

◇「高校生英語ディベート授業論 ティーチーズマニュアル」飛騨学園高山西高校

<https://www.cieej.or.jp/toefl/mailmagazine/mm58/selhi.html>

◇「平成17～19年度 SELHI 英語ディベート指導マニュアル」

宮崎県立都城西高等学校

◇「高校教師のための英語ディベート授業入門」久保裕視 アルクオンデマンド

◇「Essence of Parliamentary Debate」ICU Debating Society

◇「授業で出来る即興型英語ディベート」PDA

<https://pdpda.org/debate/>

◇「チームで英語力・課題解決力を発揮！ クラス対抗英語ディベート大会」

<https://cocorocomeast.com/archives/7771>